

入選

高橋 武惺(たかはし ゆうせい) みなみ野小 5年生

作品名:「ほたるの光は、なぞだらけ」を読んで

図書:ホタルの光は、なぞだらけ-光る生き物をめぐる身近な大冒険-

この本は、身近にいる不思議な生き物の持っている、おもしろい能力を紹介しながら科学のおもしろさを伝えてくれる本です。

ぼくは、この本を読み進めるうちに、科学のおもしろさを改めて感じ、自分でも実際に調べたい!!研究したい!!という強い思いがどんどんわきあがってきました。

科学のおもしろさを感じながら読むうち、特に印象に残った部分は二つあります。

一つ目は、『新発見は準備ができている人のところに』という部分です。著者が発光するミミズを見つけられたのは、色々な知識を普段から集めていたからでした。

このことと同じようなことを、フランスのパスツールという有名な科学者は、こういっています。

「チャンスは準備ができている心が好きだ。」

つまり、新発見のチャンスにめぐりあったとしても、それに気付くための知識と、チャンスを実際にゲットする行動力がないとうっかり逃してしまう、ということです。ぼくもチャンスを逃さないように、常に色々な事に意識を向けて、すばらしい発見ができる準備を今のうちからしていこうと思いました。

二つ目は、『発表してみよう』という部分です。著者は科学の発見は、発表して記録に残すことが大事だと言っています。きちんと発表しておけば、それが将来、大発見のヒントになると教えてくれています。今、人類が宇宙まで行ったり、重い病気を薬で治せたりするのは、科学者たちが自分たちの発見をきちんと発表して、それを積み上げてきた結果だということを知りました。ぼくも、身近なことでも、少しでも不思議に思ったら、きちんと研究をして考えをまとめ、その考えを論文にして、大勢の人に発表しようと思います。

将来ぼくも、この著者のようなすばらしい新発見を成しとげるために、少しでも不思議に思ったことはすぐに研究し、その不思議から新発見をたくさんみちびき出していきたいです。ぼくの新発見でたくさんの人々をおどろかせるために、この本

から学んだことを活かし一生懸命、努力していこうと思います。